

# 算数・数学 解く楽しさ実感

# 大学教授の講座好評

多可町で続く「おもしろ算数・数学講座」が20回目を迎えた。「数学を生活の糧にしている学者の存在を、古里の子ともたちに知ってほしい」と西脇市出身で西脇高校出の臼井三平大阪大名教授(66)が友人たちに相談して1996年度から旧八千代町で始まり、合併後の多可町に引き継がれた。受講生の中には大学で数学を専攻したり、理科の教師になったりした人もいるという。

(敏隆潤子)

## 多可で20回目迎える



20回目は、同町八千代区中野間の八千代コミュニティプラザでこのほど開かれ、町内の小学3年～70代約30人が、図形や計算の問題に挑んだ。

講師は、臼井さんのほか、足利正東北学院大教授(63)、大洲朗徳島大教授(59)、遊佐毅県立大准教授(58)と、そうそうたるメンバー。いずれも代数・幾何の研究者で、趣旨に賛同して10～20回参加した。

小学生～70代まで約30人が、研究者の指導を受け数学に親しんだ。八千代コミュニティプラザ

## 小学生から高齢者まで 図形や計算に挑む

講座では、穴が開いた板の面積を半分にする直線を求めたり、文字に数字を当てはめ、正しい計算式を導く方法を考えたりした。受講生は、数学者たちのヒントを基に、数字や図形を用紙に書きながら友人や家族と解答を話し合った。

最後に、受講生が解答を白板に書き、考え方を発表した。八千代南小6年の丸山広夢君は「もう少しで解けた問題があった」と悔しそうだった。

加古川東高1年の東森碧月さん(八千代区下三原)は「小学4年から講座に毎年参加している。発想を変えると解答に近づける。考えるのが楽しい」と講座の魅力を語った。

臼井さんは「小学生から大人まで数学を楽しんでもらっている。これからも続けたい」と話していた。